



変わるもの、変わらないこと

ご入学おめでとうございます。桜の美しい季節です。その桜もやがて花吹雪となり、新緑に風薫る季節へと変わります。こうした自然の移ろい以上に、人の世の変化は激しく速やかです。昨日までもてはやされた技術が姿を消し、次々と新しい手法や機材の登場を見る時代です。大学の学問・教育もまた、大きな社会の変化と向き合う必要があります。新分野の開拓を模索し、最先端最高度の研究を行い、その成果を分かりやすく教育・医療へ還元することが目指されなくてはなりません。時代の要請に応える個別分野の専門性と、どのような状況にも柔軟に対応出来る汎用性とを、みなさんはこれから学ぶことになります。

しかし他方、どの学問分野も安易に変更出来ない普遍的な要素や、永く保持する必要がある基本的な方針を持っています。人間存在への畏敬・知的誠実さ・事実の尊重・明晰な論理性などは、理科系と文化系との学問の全領域において、いつの時代でも尊重すべきことがらです。

もう一つ本学の特色として、変わらない考え方の基盤があります。建学の理念「大覚円成 報恩行持」です。この8文字はさまざまな解釈が可能ですが、私流に申すならば「大きな知恵を獲得し、あらゆる存在に対し感謝する」ことかと思えます。学問を通じての知的鍛錬と円満な人格陶冶の両面で社会に貢献する大学、と言うゆるぎない理念です。変化への対応が浮薄で無意味なものとならないためにも、変わらないことをしっかりと踏まえる必要があるのです。

若い時代はあっという間に過ぎてしまいます。いつまでも学び続け、どのような状況でも探究心を失わない知的基盤の形成に努力してください。全国有数の水準を誇る図書館や諸施設が、みなさんを待っています。ようこそ緑のキャンパスへ。

令和 7年 4月 5日
鶴見大学・鶴見大学短期大学部
学長 高 田 信 敬

